



『創造主訳聖書』 を読む

ロゴス出版社/PDJ 代表
聖書キリスト教会・牧師

小坂圭吾

新しい翻訳

今年のイースターに、邦訳聖書で「神」と訳されていたことばを「創造主」に改めた、日本で初めての『創造主訳聖書』が刊行されました。一般的な日本人が思い浮かべる「神」概念は八百万（やおよろず）の神であって、聖書の教える「天地万物の造り主」とは異なっています。聖書の「神」という訳語が、福音宣教の足かせになっているとも言われます。三重県四日市で伝道をしてこられた堀越暢治牧師は、長年の伝道・牧会の中で、ぜひ『創造主訳聖書』を作りたいとの熱い思いを抱かれました。堀越師は、「神」ではなく「創造主」という訳語を用いるようになってから伝道がしやすくなったと語っておられますが、この堀越師の思いが主の導きによって具体化し、2011年2月に「創造主訳聖書懇談会」が開かれ、神訳とは別に創造主訳の聖書が必要であるとの結論に至りました。このような導きの中で私もお声がけいただき、2年の歳月を経て「創造主訳聖書刊行会」が設立され、出版の運びとなったのです。

デボーション用聖書

私が最初に聖書を読みはじめて知ったことは、この世界には、八百万の神ではなく、「天地万物の造り主」がおられるということでした。聖書の冒頭に、「はじめに神は天と地とを創造された」（創世記1:1 口語訳）とあり、何の説明もありませんが、はっきりとこの世界の起源を宣言している言葉に感動を覚えたのです。この世界を造られた創造主がおられることが分かると、そのお方が私にとってどんなお方なのかが問題となりました。このようにして求道が始まり、やがて信仰の決心に至り、救いの確信を得ることができたのです。

聖書は永遠のベストセラーといわれますが、天地万物の造り主、創造主の存在をダイレクトに伝えているこの『創造主訳聖書』が、多くの方々に読まれることを願っております。底本に『現代訳聖書』を使用し、「読むだけでよく分かる」のが特徴です。毎日読む聖書、デボーション用聖書として、ぜひ1冊手元に置いてお読みいただければと思います。厚さ2cm、B6判ですので持ち運びにも便利です。求道中の方やはじめて聖書を読まれる方にも安心してお勧めできます。

閉そく感たよう教会に元気を与えるべく、ここ東京プレーヤーセンター（TPC）には礼拝と祈りの場が用意されていますが、TPCと共にこの『創造主訳聖書』が、創造主をまだ知らない99%の日本人に福音を伝える働きのために、大きく用いられることを祈ります。

『創造主訳聖書』のHPはこちらです。

⇒ www.logos-pb.com